

平成 28 年度 国立大雪青少年交流の家
地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業
「ワンドースノーランド in 大雪」事業報告書

1 事業実施の背景

青少年に対する体験活動の重要性についての理解は、家庭や地域に十分浸透しているとは言えず、そのすそ野を広げることが必要であることから、国立大雪青少年交流の家では、体験活動の重要性について理解を深めるとともに、地域の青少年への普及を推進する「体験活動推進員」を養成する活動を行っている。28年度は、根室市、留萌管内（苫前町）、胆振管内（壮瞥町）、釧路管内（釧路町）において、市の青少年育成会の研修会、学校支援地域本部や放課後子ども教室の関係者の研修会、子ども会育成連合会の研修会とタイアップし、多数の参加者が体験活動推進員として登録された。

研修会を行った留萌管内は比較的雪が少ない地域のため、同管内の子供たちに大雪のパウダースノーを活用した体験活動の提供と研修会で推進員となった参加者のフォローアップの機会とした。

2 事業趣旨

北海道でも積雪の少ない海岸沿いの留萌振興局管内市町村の子供たちに、大雪のパウダースノーを使った雪遊びの機会を提供し、自然体験活動の重要性を広く普及し、併せて体験活動推進員の参加協力により、推進員のフォローアップを行い全道に体験活動を普及する。

3 主催 北海道「体験の風をおこそう」運動推進協議会

4 後援 北海道教育委員会、苫前町教育委員会

5 事業概要

- ・期日 平成 29 年 2 月 4 日（土）～ 5 日（日）（1泊2日）
- ・会場 国立大雪青少年交流の家
- ・対象 北海道苫前郡苫前町の小学生、中学生
- ・定員 20名

6 目的の達成指標（アウトプット）

- ・参加者の満足度（数値、記述）

7 広報

対象児童の在籍する小学校2校、中学校2校に、苫前町教育委員会を通して、チラシの配布を依頼した。応募締切が冬休み明け間もないため、対象児童配布用としてチラシ250枚を冬休みに入る前に苫前町に送った。さらに、教育委員会では町のホームページに募集案内を掲載したり、新たに町独自のチラシを作成して、参加者の確保に努めた。

冬休み中は応募がほとんどなかったが、最終的には13名の申込があった。定員を大きく下回ることになった結果については、町内のイベントなどと日程が重なり、それらへの参加を決めていた児童、生徒も多かったことによると推測される。

8 参加者人員・類型

参加者 12名（定員比 60%）

内訳：小学3年生6名、小学6年生4名、中学1年生1名、中学2年生1名

9 事業日程・内容

(1) 日程

	6:00		7:30			12:00	12:30	13:00	14:30	14:00		16:00	17:30	19:00		20:00		22:00
4 (土)			バスで迎え			開会式 到着	昼食		着替え	ふわふわ雪体験！ 〈グラウンド 他〉		休つと憩い	夕食	星空&スノーキャンドル体験！ 〈玄関付近〉		入浴	自由交流	就寝
5 (日)	起床	つどい	朝食	雪上ハイキング体験！ (周辺)		閉会式	昼食	バスで送り 交流の家→苔前小学校→苔前町公民館				到着						

(2) 概要・運営のポイント

雪を使った屋外での活動を中心にプログラムを組み、雪遊びなどの体験活動の楽しさを参加者が感じられる内容を目指した。また、班メンバーは、学年や居住区のバランスを考えて編成し、事業終了後に地域に戻った際にも、交流が生まれる契機となることも目指した。

(3) 各プログラム内容

① ふわふわ雪体験

前半は、班の結束力を高めるねらいで、班対抗の「綱引き」「スレッドリレー」「ぐるぐるバット」の3種をグラウンドで行った。後半は隣接する傾斜地も使い、「バナナボート体験」「スノーキャンドル作り」「チューブ滑り」の3種類を班ごとに回って活動した。活動の合間には、「アイスクリーム作り」も行った。豊富な雪の中での活動を、参加者全員で楽しんだ。



② 星空&スノーキャンドル体験

「ふわふわ雪体験」活動で作ったスノーキャンドルに火を灯し、キャンドルの明かりの中で、集団ゲームを行った。曇天のため、星空を眺めることはできなかったが、代わりに参加者一人一人のスピーチの時間を設けた。温かみのあるキャンドルの明かりの中で、自分の将来の夢や希望を発表し、参加者それぞれの思いを互いに共有した。



③雪上ハイキング

スノーシューを履き、施設周辺の森の中へハイキングに出かけた。森の中では、要所で職員がネイチャークイズを出題し、木が倒れた理由を考えたり、足跡が何の動物のものかなどを考えたりしながら、夏には入っていけないような森の中の散策を楽しんだ。この日が誕生日だった参加者を全員で雪のケーキを作って祝いする場面などもあり、深雪を楽しみながら、ハイキングを行った。



9 参加者アンケートから

(1) 総合的満足度

- ・満足 10 83.3%
- ・やや満足 2 16.7%

> 「満足」「やや満足」を合わせて満足度は100%となった。

(参加者の声)

- 楽しかった。
- 違うチームの人とかもあいさつできた！
- 全部楽しかった。
- とても楽しかった。また、来たいです。

(2) プログラム

- ・満足 12 100%

(参加者の声)

- 全部面白かった。
- いろんな体験ができてよかった！
- わかりやすかった。
- 順序がいい。楽しめた。

(3) 事業運営

- ・満足 9 75.0%
- ・やや満足 1 25.0%

(参加者の声)

- とてもやりやすかった。
- よかったです。
- 楽しかった。
- 朝とかお腹がぺこぺこだった。体操とかをしたからだ。

(4) その他参加者の声

- 楽しんだりすることも掃除やあいさつをやって改めてそういう大切さを知った！
美瑛に初めて来たけどいろんな魅力を知れてよかった！

- バナナボートやチューブ滑りがとても楽しかったし、アイスもとてもおいしかったです。
- とても楽しかったのでまたきたい！レストランの料理もとてもおいしかったし、雪遊びが楽しかった。
- 友達と仲良くできた。みんなで寝てたのしかった。
- バナナボートがたのしかったです。初めて体験することがたくさんあっていい経験になりました。(スノーシュー、チューブ滑り)
- 苫前町とは違う特色などを知れたので良かった。体力をつけれたと思う。
- ほとんどが雪を使って楽しい遊びをして雪に興味が沸いてきた。また行きたいです。

10 事業の成果

(1) 事業背景の達成度

苫前町は、全国学力・学習状況調査において、学力面は全ての項目において全国平均を上回り、学習状況の調査で小・中学生とも全道平均を20ポイント以上も上回った項目として、「今住んでいる地域の行事に参加している」が挙げられていることから、地域や学校、家庭が教育に対して非常に力を入れていることが伺える地域だと言える。そのため、体験活動の重要性について理解したり、子供たちへの体験活動の場の提供を行ったりするという点においては、他の地域よりも理解の深い町であると推測する。しかし、冬期間の屋外での活動となると、降雪量の少ない地域であるために、今回のように豊富な雪で遊ぶ体験は、子供たちにとっては新たな体験となり、雪で仲間と遊ぶ楽しさを実感したことであろう。今回は、管内体験活動推進員研修会で推進員に登録された方の参加はなく、推進員のフォローアップには役立てられなかったが、スタッフとして参加した社会教育課の課長と他2名の公民館職員、それに地元の農協の若手職員の1名には、参加者の子供たちの姿をとおして、事業背景で挙げている体験活動の重要性や魅力について再認識する機会としてもらうことができた。今回の事業をモデルに、今後は苫前町が主催する事業として実施することも検討してもらえらることになり、苫前地区だけでなく、隣接する管内の他地域にも体験活動の重要性を一層広めていく機会となることが期待できる。

(2) 参加者の実際

今回の事業については、参加児童・生徒全員から非常に高い満足度を引き出すことができた。その理由として、自然体験、施設利用など、参加者にとっては初めての体験が多かったこと、団体が少人数であることから、参加者同士がとても親密にコミュニケーションを取り合うことができていたこと、移動や準備が短時間に行えるために、余裕をもって活動が行えたことなどが考えられる。アンケートでは、次回の活動参加を期待するコメントも多く、新しい体験に意欲的に取り組もうとする子供たちの意識を高められたと感じる。

11 事業の課題

(1) 事業の趣旨

事業の成果でも触れているが、体験活動推進員に参加してもらうことができなかった。前述の管内体験活動推進員研修会での登録者に限らず、他の地域の推進員にもフォローアップの有効性や効果を伝えて、体験活動の推進に役立ててもらえるような手立てを講じる必要がある。今回の苫前町からの農協職員のように、地元の社会教育行政担当者から依頼や勧誘を行うことは、有効な手立ての一つであろう。

(2) 広報等（参加者要請）

今回は、参加者数が募集定員を下回ってしまったことは大きな反省点である。広報は事業の1か月以上前に始めたが、学校の長期休業を挟んだことにより、参加対象の児童・生徒同士が事業について誘い合うような場面が少なかったこと、事業の日程が町内の他のイベントと重なったこと、参加対象の児童・生徒を苫前町内に限定してしまったことなど、事前に想定するべき事項についての認識が弱かった面がある。今後は、募集に関するこれらの不安要素を少しでも減らす努力と工夫を積極的に考えていく必要がある。

(3) 事業プログラムの展開

1日目の夜は星空観察とスノーキャンドルを予定していたが、曇天のため全く星空を見ることができなかった。荒天プログラムとしてクラフト活動の準備はしていたが、スノーキャンドルは行えて、星空は見えないという想定が落ちていた。星空観察の代わりに行ったスピーチ大会には、参加者は真摯に取り組んでいたが、少人数であったためにできたことであり、募集定員通りの参加者数であれば、時間的に実施の難しい内容であった。改めて、見通しや想定をしっかりと立てること、丁寧な準備を行っておくことの大切さについて考えさせられた。

